

## ZANDEN Model 120 の展開(69) ーベーターヴェンを聴き直す(4)ー

### 1. 始めに

前報(68)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンの弦楽四重奏の下記を選定しました。

#### DENON OX-7105-ND

弦楽四重奏曲第 1 番へ長調作品 18-1

弦楽四重奏曲第 5 番イ長調作品 18-5

スメタナ四重奏団

上記は下記で報告しています。

#### [アナログ再構成後の活用\(9\)](#)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

DENON 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきまし

た。

初期の PCM 録音ですので、音質に多くは望めませんが、すっきりとした聴きやすい音ではありますが、弦の艶は出にくかったと記憶しています。

弦楽四重奏曲第 1 番はベートーヴェンの最初の弦楽四重奏曲ですが、しっかりした構成で完成度が低いということはありません。

弦楽四重奏曲第 5 番も第 1 番よりは砕けた感じですが、同様に弦楽四重奏曲としての構成は確かです。スメタナ四重奏団の演奏は、適度な緊張感でベートーヴェンらしさを引き出しています。

[アナログ再構成後の活用\(9\)](#) では、Garrad のシステムでしたが、前報(24)で報告しましたような LINN LP-12 における一連の改造の効果があって、これまで感じられていた初期の PCM 録音のもどかしさがかなり払拭されています。

#### 4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上